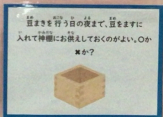
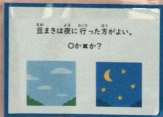
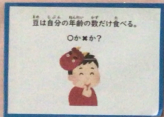


やいかがし



いわれを聞いたときのけむりとにおいが厄をはらうといわれ、節分の日には家の入口にいわしの旗をひいらぎの枝にさしてかざり、糺よけにします。鬼のいやがるいわしのにおいと、ひいらぎの葉のとげに刺がって、鬼が近よらないと言われていました。  
節分にいわしを食べる地方もあります。

節分という言葉には、「季節を分ける」という意味があります。季節の分かれ目とは、立春・立夏・立秋・立冬のことです。その前日が、節分です。旧暦では立春と正月がとても近く、立春のころが正月だったため、立春の前の節分が、節分の代表的な行事となりました。  
昔の人は、病気や災いごなどは、鬼が持ってくると思っていた。また、季節の変わり目には、病気や災いごとが起きやすかったため、節分は鬼を追い払う行事として、豆まきなどが行われます。

